

することにより^{ふくとく}福德を生^{しょう}ずるものこと。仏^{ぶつ}や僧^{そう}、貧^{ひん}窮^{きゆう}の人など。

บุชชา buuchaa [動] 供養^{くよう}する (Ⅲ)。祭^{まつ}る (Ⅰ)。敬意^{けい い}を表^{あらわ}す (Ⅰ)。

โอะฮิงัน

กล่าวกันว่า โอะฮิงัน เป็นงานที่มีอยู่ในประเทศญี่ปุ่น
เท่านั้น ในหนึ่งปีมีงาน โอะฮิงัน อยู่ 2 ครั้ง และครั้งละ 7 วัน
คือวันวสันตวิษุวัตกับหน้าหลัง 3 วัน และอีกครั้งหนึ่ง
คือวันสารทวิษุวัต กับหน้าหลัง 3 วัน ในสัปดาห์วิษุวัตชาวพุทธจะ
ทำพิธีรำลึกในวัดและฆราวาสจะไปสุสานของตระกูล กล่าวกันว่า
งาน โอะฮิงัน นี้ได้กระทำกันมาตั้งแต่สมัยเจ้าชาย โฉโมโตะกุ

คำว่า ฮิงัน ในคำว่า โอะฮิงัน เป็นคู่ของคำว่าผิงัน คำว่า
ฮิงัน หมายถึงฝั่งของโลก คือแดนสุขาวดี และผิงัน หมายถึง
ฝั่งของโลกนี้ ที่เต็มไปด้วยความทุกข์ในระยะ สัปดาห์วิษุวัตนั้น
ประชาชนพยายาม ที่จะปฏิบัติ ตามหลักปฏิบัติของพุทธศาสนา
ซึ่งหมายถึงบารมี 6

ในสมัยโบราณกาล ชาวจีนและชาวญี่ปุ่นเข้าใจคำว่า บารมี
ว่าการข้ามไปถึงฝั่งโน้น (pāram + ita) ดังนั้น บารมี หมายถึง
การไปจากฝั่งที่มีการตายเกิดซ้ำซากสู่ฝั่งโน้นคือนิพพาน
แต่ความหมายเดิมของบารมี คือ ปัญญาสูงที่สุด

(お) 彼岸^{ひ がん}

(お) 彼岸^{ひ がん}は日本独特^{にほん どうかとく}の行事^{ぎょうじ}と言^いわれます。春分^{しゅんぶん}の日^ひと
秋分^{しゅうぶん}の日^ひのそれぞれをはさんだ前後三日間^{ぜんご みっ かん}、各七日間^{かく なのかん}を言^いいます。
お寺^{てら}では、読経^{どきょう}や法話^{ぼうわ}などをして法要^{ぼうよう}を行^{おこな}い、信者^{しんじゃ}はお寺^{てら}やお墓^{はか}
にお参^{まい}りします。お彼岸^{ひ がん}の起源^{きげん}は古^{ふる}く、聖徳太子^{しょうとくたい}のころから行^{おこな}
われたと言^いわれます。

彼岸^{ひ がん}とは此岸^{し がん}に対する言葉^{ことば}です。此岸^{し がん}は苦^{くる}しみ^みに満ちたこ
の世^よで、彼岸^{ひ がん}は理想^{り そう}の浄土^{じょうど}を意味^いします。此岸^{し がん}にいる人^{ひと}は、特に^{とく}
この期間^{き かん}、仏道^{ぶつどう}に励^{はげ}みます。この場合^{ばあい}の仏道^{ぶつどう}とは、六波羅蜜^{ろく は ら みつ}です。

古来^{こらい}、中国^{ちゅうごく}や日本^{にほん}での六波羅蜜^{ろく は ら みつ}の解^{かい}釈^{しゃく}は、彼岸^{ひ がん}に (pāram)
至^{いた}る (ita) と解^{かい}釈^{しゃく}したので、波羅蜜^{は ら みつ}の修行^{しゅぎょう}によって生^{しょう}死^じ輪^{りん}廻^ねの
此岸^{し がん}から、菩提涅槃^{ぼだい ねはん}の彼岸^{ひ がん}に至^{いた}るとい^いう意味^{い み}でした。しかし、本来^{ほんらい}
の意味^{い み}は、pāramin parama+tā であり、最上^{さいじょう}であることを意味^{い み}し
ます。

เบญจขันธ์ *benca-khān* [名] 五蘊：人間の肉体と精神を色蘊・受蘊

・想蘊・行蘊・識蘊の五つの集まりに分けて示したもの。①色蘊

は物質および肉体。②受蘊は外界の刺激や印象を受け入れるはた

らき（感受作用）。③想蘊は感覚器官を通じて外界の対象の性質

・形態・関係や身体内部の状態を把握する作用（知覚）に基づい

て意識に現れる外的対象の像をつくるはたらき（表象作用）。

④行蘊は意志・記憶など。⑤識蘊は認識作用。

เบญจศีล *benca-siīn* [名] 五戒：五つの戒め。→ ศีล 5 / 五戒

เบญจางคประดิษฐ์ *bencaṅkhá-pràdīt* 五体投地：五体投地の五体と

は、体の五つの部分、すなわち、両膝・両肘・頭のことで、五体

を地につけて尊者の足下を拝することで、最高の礼法。

ปฏิจจสมุปบาท (อินจิ หรือ อินเอน)

เกี่ยวกับปฏิจจสมุปบาท ในภาษาญี่ปุ่นมีข้อความมากมาย
ที่ใช้คำว่า เอนจิ หรือ อินเนน ตามเช่นตำนานว่า “เอนจิ
เคะโมะโน” หมายถึง ลางร้าย ตำนานว่า “เอนจิ โอะ คะทซุงุ”
หมายถึง ถือกลาง ตำนานว่า “อินเนน โอะ ทซุเกะรุ”
หมายถึงการเปิดฉากต่อสู้ ประวัติของวัด เทวสถาน พระพุทธรูป
และพระสูตรก็เรียกว่า เอนจิ ด้วย เช่น ประวัติของวัด ไทมะเคะระ
เรียกว่า “ไทมะเคะระ เอนจิ” เป็นต้น

โบราณสถาน *booraana-sàthāan* [名] 古代遺跡。遺跡。

โบสถ์ *bòot* [名] 本堂。布薩堂。講堂。

— ป —

ปฏิจจสมุปบาท *pàtīcāsamúpbàat* [名] 縁起。因縁。→

ปฏิจจสมุปบาท / 縁起

ปฏิจจสมุปบาท 12 *pàtīcāsamúpbàat-sìpsǎwŋ* [名] 十二因縁。

→ ปฏิจจสมุปบาท 12 / 十二因縁

縁起

縁起に関して、日本語の中には、縁起とか因縁と言った縁起
を意味する言葉がたくさんあります。たとえば、「縁起でもない」
という言葉は、よくないことの起る兆しを意味します。「縁起を担
ぐ」という言葉は、ちょっとしたことにも縁起がいいとか悪いと
か気にすることを意味します。「因縁をつける」という言葉は、言
いがかりをつけることを意味します。寺や神社や仏像や經典の由
来は「縁起」と書かれます。たとえば、当麻寺の歴史は、「当麻寺縁起」
と記されます。

ปฏิบัติ pàtibàt [動] 修行する(Ⅲ)。遂行する(Ⅲ)。実践する(Ⅲ)。

ปฏิสนธิ pàtì-sǒnthí? [動] 生まれる(Ⅱ)。誕生する(Ⅲ)。受胎する(Ⅲ)。

ปฏิสังขรณ์ pàtì-sǎṅkhǒon [動] 修復する(Ⅲ)。修理する(Ⅲ)。

ปฐมเทศนา pathǒmmá-thêetsànaa [名] 最初の説法。すなわち、「^{しょてんぽうりん}初転法輪」のこと。→ พระสาวก ^{しゃか}พระสาวก / ^{しょうがい}お釈迦さまの生涯
ปฐมสาวก pathǒm-sǎawók [名] ^{さいしょ}最初の弟子。すなわち、アンニヤーコーンダンニヤ。

ปณิธาน pàníthaa [名] ^{がん}願。誓願：求めるものを得ようと願い求めること。誓いをたてて願うこと。

ปมาทะ, ความประมาท pàmaathá, khwaam-pràmaat [名] ^{ほういつ}放逸：なまけること。^{たいだ}怠惰。^{こころ}心が^{さんまん}散漫となり^{ぜんぎょう}善行に^{こころ}心を^{そそ}注ぐことができないこと。

ปรมาตถ์ pràmát [名] ^{さいこう}最高の利益。^{りえき}通常、涅槃、^{つうじょう}最高の意味、^{ねはん}最高^{さいこう}の真実。^{いみ}の真実を意味する。

ปรมัตถธรรม pàramáthà-tham [名] ^{しょうぎ}勝義。^{だいいちぎ}第一義諦：^{さいこう}最高の真実。^{しんじつ}

ปรโลก pàrá-lôok, pǎa-lôok [名] ^{たせ}他世。^{たかい}他界。^{らいせ}来世。^{ごせ}後世。^よあの世。

ประคด prákót [名] ^{そうりょ}僧侶の腰紐。^{こしひち}

ประเคน pràkheen [動] ^{りょうて}両手で^{ささ}捧げるようにして(僧に)物^{もの}をさしあげる(Ⅱ)。

ประชุมเพลิง pràchum-phlœṅ [動] ^か火葬用の薪に^{そうよう}火をつける(Ⅲ)。^{たきぎ}

ประทักษิณ pràtháksin [名] ^{うにょう}右繞。^{みぎまわ}右回り：^{そんけい}尊敬する物や人^{もの}に対して、^{ひと}右まわりに^{たい}めぐること。

ประพรม prà?phrom [動] ^{みず}水を^{そそ}注ぐ(Ⅰ)。水を^{みず}振り^ふかける(Ⅱ)。

ประโยชน์ pràyòot [名] ① ^{りやく}利益。^{くどく}功德。^{ほどけ}仏や神の力^{かみ}によって^{ちから}与えられる^{あた}恵み。② ^{りえき}利益。^{こうか}効果。^{こうのう}効能。

ปริญญา pàrinyaa [名] ① ^{へんち}遍知：あまねく^し知り^つ尽くすこと。② ^{がくい}学位。

ปรินิพพาน pàrinípphaan [名] ^{はつ}般涅槃。^{ねはん}円寂：^{えんじゃく}完全な涅槃。^{ねはん}完全な^{かんぜん}涅槃。^{かんぜん}完全な^{さと}覚り。

ปริพาชก pàríphaachók [名] ^ゆ遊行者。^{ぎょうしゃ}巡礼僧。^{じゅんれいそう}

ปริยัติ pàriyát [名] ^{さんそう}三蔵を^{がくしゅう}学習すること。⇒ พระไตรปิฎก

ปัจจัย pàtcai [名] ① ^{えん}縁。^{じょえん}助縁。^{どうき}動機。② ^{しぐ}資具。^{どうく}道具。

ปัจจัย 4 pàtcai-sii [名] ^{ししぐ}四資具。^{しじ}四事：^{びく}比丘の^{にちじょう}日常に^{ひつよう}必要な^{ししゅ}四種^{しな}の品。すなわち、① ^{いふく}衣服 ② ^{しょくもつ}食物 ③ ^{がぐ}臥具 ④ ^{やくひん}薬品。

ปัจเจกพุทธะ pàtcèekkhà-phútthá? [名] ^{えんがく}縁覚。^{どっかく}独覚：^し師なくして^{どくじ}独自に^{さと}覚りを^{ひら}開いた人。^{ひと}

ปัจฉิมโอวาท pàtchímmá?oowâat [名] ^{ぶつ}仏陀^{ださい}最後の^{おし}教えの^{ことば}言葉。すなわち、『^{おこた}怠ることなく^{はげ}励み、^な成し^と遂げよ。』

ปัจจัยการ pàtcàyaakaan [名] ^{えんぎ}縁起。→ ปฏิจตมุปบาท / ^{えんぎ}縁起

ปัญญา panyaa [名] ^{はん}般若。^え慧。^{ちえ}智慧：^{しん}真理を^{りん}認識し、^{にん}覚りを^{しき}開くはたらき。最高^{さいこう}の智慧。この智慧は単なる知識ではなく、^{かい}戒と^{じょう}定に^{うら}裏打ちされて^{しょう}生じるものである。→ ^{さん}สิกขา 3 / ^{がく}三学，

โพธิปักขิยธรรม 37 / ^{さんじゅうしちどうぼん}三十七道品

ปัญญาจักขุ panyaa-càksù? [名] ^{え げん}慧眼：物事を正しく^{ものごと ただ}観察する^{かんさつ め}眼。

^{てつがくてきどうさつりよく}哲学的洞察力。

ปัญหา panhāa [名] ^{とい}問。^{しつもん}質問。^{ぎもん}疑問。

ปาจิตติย paacittii [名] ① ^は波逸提品：^{いつだいぼん}律藏の中の^{りつぞう なか}一章。^{いっしょう}② ^{かいりつ}戒律の

^{たんだがい か}单墮罪過の一つ。→ ^{に ひやく に じゅうしちかい}ศีล 227 / 二百二十七戒

ปาฏิโมกข์ paatimôok [名] ^はパーティモッカ。^{ら だいもくしゃ}波羅提木叉。^{べつ げ だつ}別解脱。

^{かいぼん}戒本：^{かいりつ}戒律の^{じょうぶん}いちいちの^{あつ}条文を集めたもの。^{はんつきごと}半月毎の^{ふ さつ}布薩に、^{そう}僧

^よが^あ読み上げる^{かいぼん}戒本で、^{び く かいきょう}比丘戒經（^{に ひやく に じゅうしちかい}二百二十七戒）と^{び く に かいきょう}比丘尼戒經

（^{さんびやくじゅういちかい}三百十一戒）に分れる。→ ^{わ か}วันอุโบสถ / ^{ふ さつ}布薩

ปาฏิเทสนิยะ paatìthesaniiya [名] ^{かいりつ}戒律の^は波羅提提舍尼^{に ざい か}罪過の一。^い

→ ^{に ひやく に じゅうしちかい}ศีล 227 / 二百二十七戒

ปาฏิหาริย์ paatihāan [名] ^{じんべん}神变：^{き せき}奇跡。^{ふ し ぎ}不思議なこと。

ปาฏิหาริย์ 3 paatihāan-sāam [名] ^{さんじんべん}三神变。^{さんしゅじんべん}三種神变：^{さんしゅ}三種の^{き せき}奇跡。

^{き せきてき}すなわち、① ^{こう い}奇跡的な^{あらわ}行為を^{ひとびと}現して^{こころ}人々の^{うご}心を^{ぶっきょう}動かして、^{ぶっきょう}仏教

を^{しん}信じさせること（^{じんづうじんべん}神通神变）② ^{ひとびと}人々を^{きょうどう}教導しようとして^{ほう と}法を^{ほう}説

くこと（^{き せつじんべん}記説神变）③ ^{あい て}相手の^{こころ}心の中を^{なか}知って^しそれに^{おう}応じて^{おし}教えを^と説

くこと（^{きょうかいじんべん}教誡神变）。

ปาณาติบาต paanaatibàat [名] ^{せつしょう}殺生：^い生きものを^{ころ}殺すこと。→ ^{りつ}ศีล / 律

ปาราชิก paaraachík [名] ^{かいりつ}戒律の^は波羅夷^{いざい か}罪過の一。^い→ ^{りつ}ศีล 227 /

^{に ひやく に じゅうしちかい}二百二十七戒

ปิดทอง pìt-thoon [動] ^{きんぱく}金箔を^は貼る（Ⅰ）。

ปิ่นโต pìntoo [名] ^{て き}手提げの^{がき}重ね^{べんどうぼこ}弁当箱。

ปิยวาจา piyá-waacaa [名] ^{あい ご}愛語：^{しんあい}親愛の^{じょう}情の^{ことば}こもった言葉。

ปีติ piiti? [名] ^き喜。^{き えつ}喜悅：^よよろこび。→ ^{しちかくし}โพชฌงค์ 7 / 七覺支

ปุถุชน pùthùchon [名] ^{ぼん ぶ}凡夫：^{ふ つう}普通の人。^{ひと}

ปูชนียบุคคล puuchaniiyá-bùkkhon [名] ^{そんけい}尊敬すべき人。^{ひと}

ปูชนียวัตถุ puuchaniiyá-wátthù? [名] ^{すうはい}崇拝すべき物。^{もの}

ปูชนียสถาน puuchaniiyá-sathāan [名] ^{すうはい}崇拝すべき場所。^{ば しょ}

เปรต prèet [名] ^{が き}餓鬼：^{ろくどう}六道の中の^{なか}一つ。^{ひと}→ ^{ろくどう}คติ 6 / 六道

เปรียญ parian [名] ^ごパーリ語試験^{しけん}三級^{さんきゅう}以上^{い じょう}の合格者^{ごうかくしゃ}の称^{しょう}。

— 卍 —

เผยแผ่ phǎœi-phèe [動] ^{でん ぱ}伝播する（Ⅲ）。^{ふ きゅう}普及する（Ⅲ）。^{せん でん}宣伝する

る（Ⅲ）。^{ひろ}広くゆきわたる（Ⅰ）。

แผ่เมตตา pheè-méettaa [動] ^た他の人^{ひと}を^{こうふく}幸福に^{い じょう}しようと^{ねが}願う（Ⅰ）。

— 卍 —

พนมมือ phánom-mu [動] ^{がっしょう}合掌する（Ⅲ）。

พยากรณ์ pháyaaakon [名] 解説。記別。予言。授記：仏陀が弟子
に未来世にあなたは成仏しますよと予言すること。

พยาธิ pháyaaathí? [名] 疾病。病氣。

พรหมน้ำมนต์ phrom-námmon [動] 聖水をふるかける(Ⅱ)。

พรหมปี phansāa [名] 年。雨。雨季。安居：安居とは、修行者た
ちが雨季の期間、一か所で集団生活し、外出を避けて修行に専念
すること、またその期間をいう。雨季の定住。

พรหมจรรย์ phromma-can [名] 梵行。仏道修行。清淨行。
不婬行：出家者が戒律を守って禁欲の生活を送ること。

พรหมวิหาร phromma-wihāan [名] 梵住。無量心：慈悲の心で
人々と接することができるようになる位。

พรหมวิหาร 4 phromma-wihāan-sii [名] 四梵住。四無量心：四
つのはかりしれない心。慈・悲・喜・捨の四つをいう。これらの
心を無量におこして、無量の人々を覚りに導くこと。慈とは
すべての生きものを慈しみ樂を与えること。②悲とはすべてのも
の苦しみに同情してその苦を抜くこと。③喜とは他人の幸福をね
たまないで共に喜ぶこと。④捨とはあらゆる執着を捨てて好き
嫌いによって差別しないこと。これを修する者は大梵天界に生
れるので四梵住ともいう。

พระภิกษุ phrá?khruu [名] 比丘の階級名の一つ：チャオ・クンよ
りも下の位。

พระเครื่อง phrá?khrûang [名] 小さな仏像。お守りとして身に付け
る小さな仏像。

พระไตรปิฎก phrá?traipìdòk [名] 三蔵：経蔵・律蔵・論蔵の三
つをいう。仏教の典籍を総称したもの。経蔵とはお釈迦さまの説
かれたお経を集めたもの。律蔵とは、お釈迦さまの定められた戒律
を集めたもの。論蔵とは、お釈迦さまより後の時代の優れた人が
お釈迦さまの説かれた経や律から、教義・教理上重要な綱目
などを集め、それらについて解釈・解説を施したもの。

พระธรรม phrá?tham [名] 仏法：仏陀の説いた教え。

พระนอน phrá?-nawn [名] 寝釈迦像。涅槃像。

พระบรมสารีริกธาตุ phrá?bòrommá-saariiríkkathâat [名] 仏舍利
：お釈迦さまの遺骨。

พระประจำวัน phrá?-pràcam-wan [名] 曜日守護仏：守り本尊とし
て、生まれた曜日ごとに決まっている仏像。

พระประธาน phrá?-pràthaan [名] 本尊。

พระปรางค์ phrá?-praang [名] ストゥーパ。仏塔。

พระพุทธเจ้า phrá?-phútthá-cáo [名] 仏陀。お釈迦さま。釈尊。

พระพุทธรูป phrá?-phútthá-bàat [名] 仏足跡：仏陀の足跡の形
を石に彫りつけ、画いたもの。

พระพุทธรูป phrá?-phútthá-rûup [名] 仏像。

พระพุทธรูปปางนั่ง phrá?-phútthá-rûup-paang-nâng [名] 坐像。

พระพุทธศาสนา phrá?-phútthá-sàatsànaa [名] 仏教。

พระศรีรัตนตรัย phrá?-sī-ráttàna-traī [名] 三宝：仏・法・僧。仏教徒にとって敬うべき三つのもの。仏教を説いたお釈迦さま（仏）と、その教え（法）と、それを奉ずる人々の集団（僧）を宝にたとえたもの。

พระสงฆ์ phrá?-sǎng [名] 釈迦牟尼。お釈迦さま。見よ。→ พระสงฆ์ / お釈迦さま

พระสงฆ์ phrá?-sǎng [名] 僧。比丘：僧伽と言う場合は、「คณะสงฆ์」。

พับเพียบ pháp-phīap [動] タイ式の正座ですわる（I）：膝を曲げて坐り、両足首をそろえて斜め後の右か左へ出し、片手を床について上体を支えてすわる。

พิธีทางศาสนา phítthī-kaan-thaang-sàatsànaa [名] 宗教儀式。

พุทธเจ้า phútthá-cāo [名] 仏陀。お釈迦さま。

พุทธบริษัท phútthá-boorisat [名] 仏教教団を構成する構成員。

すなわち、男性出家者（比丘）・女性出家者（比丘尼）と男性信者（優婆塞）・女性信者（優婆夷）の四衆。または、男性出家者（比丘）

・女性出家者（比丘尼）・十八歳から二十歳までの見習い女性

出家者（式叉摩那）・見習い男性出家者（沙弥）・見習い女性出

家者（沙弥尼）・男性信者（優婆塞）・女性信者（優婆夷）の七衆。

พุทธบาท phútthá-bàat [名] 仏足跡：仏陀の足跡の形を石に彫りつけ、画いたもの。

พุทธประวัติ phútthá-pràwàt [名] 仏伝：お釈迦さまの生涯の伝記。

พุทธภาษิต phútthá-phaasit [名] 仏所説：仏陀の説。

พุทธมามกะ phútthá-maamákā [名] 仏教徒。

พุทธศักราช phútthá-sàkkàràat [名] 仏暦：仏陀が涅槃に入った時をもとにした暦。スリランカ、ビルマでは仏陀が涅槃に入ったときから数えるが、タイでは一年経ってから数えるので一年の差がある。タイの仏暦を西暦になおすには、「仏暦 - 543 = 西暦」。

พุทธศาสนาเถรวาท phútthá-sàatsànaa-thēerá-wāat [名] 上座部仏教：現在、東南アジアに伝わる仏教。

พุทธศาสนาพหุยาน phútthá-sàatsànaa-mahāa-yaan [名] 大乘仏教：紀元前後頃からインドに起った改革派の仏教。日本の仏教は大乘仏教。

พุทธศาสนาหินยาน phútthá-sàatsànaa-hīnā-yaan [名] 小乗仏教：改革派の大乘仏教が、既存の仏教を蔑んで呼んだ名前。

พุทธโอวาท 3 phútthá-?oowāat-sāam [名] お釈迦さまが説かれた重要な三つの教え。①いかなる罪も犯さない。②善を行う。③心を清浄に保つ。⇒ โอวาทปาฏิโมกข์

เพล phen [名] 午前十一時～正午：僧の昼食時間。

โพธิ phōotthī [名] ①菩提：一切の煩惱から解放された迷いのない状態。②菩提樹：お釈迦さまがこの樹の下で覺りを開いた。

โพธิปักขิยธรรม phoothī-pàkkhiyātham [名] 覺支。菩提分：覺り

へと導く要素のこと。七つの要素すなわち七覚支がある。すなわ

ち、三十七菩提分。三十七道品。→ โพธิปักขิยธรรม 37 / 三十七道品

โพธิสัตว์ phoothí-sàt [名] 菩薩。菩提薩埵：語源的には、「覺りを求めるもの」であるが、上座部仏教では、前世時代のお釈迦さまを特に意味する。また、未来に仏陀となる弥勒菩薩がいる。大乘仏教では、前世時代のお釈迦さまと弥勒だけでなく、自ら覺りをめざし、一方で他の人々の救済を目指す修行者のことを菩薩と呼ぶ。

— ฦ —

ภาพวาด phâap-wâat [名] 絵画。描画。絵を描くこと。

ภิกษุ phíksù? [名] 比丘：出家得度して具足戒を受けた男の修行者。

ภิกษุณี phíksùnii [名] 比丘尼：出家得度して具足戒を受けた女の修行者。

— ม —

มงคล mongkhon [名] 吉祥。吉瑞。瑞祥。祝祭：めでたいこと

が起るきざし、または、めでたいこと。

มานะ, มโน mana, mánoo [名] 意。心。

มนต์, มนตร์ mon 呪文。神呪。真言。

มนุษย์ mánút [名] 人。人間。

มโนทุจริต mánoo-thútcarit [名] 意悪行：心による悪い行い。

①むさぼること(貪欲) ②怒り憎むこと(瞋恚) ③因果などを否定する誤った見解(邪見)を持つことの三つ。⇒ ทุจริต 3

มโนสุจริต mánoo-sútcarit [名] 意善行：心による正しい行い。正しい考え。すなわち、①むさぼらないこと(無貪欲) ②怒り憎まないこと(無瞋) ③仏教の教えに従った正しい見解(正見)を持つことの三つ。⇒ สุจริต 3

มรรณภาพ mocráná-phâap [名] 寂滅：比丘や沙弥の死のこと。

มรรณสติ mocraná-satí? [名] 死念。死の観念。死についての正念：死について心を集中して観察思念すること。

มรรค 8 mák-phèet [名] 八正道。⇒ มรรค 8 / 八正道

มหายาน mahāa-yaan [名] 大乘仏教。北伝仏教。

มัจจุราช mátcù-râat [名] 死王。死神。魔王。死の神。

มัชฌิมาปฏิปทา máтчimaa-patipàthaa [名] 中道。→

มัชฌิมาปฏิปทา / 中道

มาฆบูชา maakhá-buuchaa [名] 万仏節：四部集合が起こった日。

陰暦三月の満月の日。⇒ พระสากขมุนีพุทธะ / お釈迦さま

มายา maayaa [名] ① 幻^{まぼろし}。幻影^{げんえい}。幻術^{げんじゆつ}。妖術^{ようじゆつ}。ごまかし。トリック。策略^{さくりやく}。② 摩耶夫人^{まやぶにん}。お釈迦^{しゃか}さまの実母^{じつぼ}。お釈迦^{しゃか}さまを生

んだ後七日目に死去した。→ พระตากยมุนีพุทธะ / お釈迦^{しゃか}さま

มารี maan [名] 魔^ま。惡魔^{あくま}。魔羅^{まら}。魔王^{まおう}。死神^{しにがみ}。

มิจฉาทิฏฐิ mitchhāa-thítthi? [名] 邪見^{じゃけん}：仏教^{ぶつぎょう}の教え^{おし}を無視^{むし}する、間違^{まちが}った考え方^{かんが かつ}。

เมตตา mēttāa [名] 慈^じ。慈心^{じしん}。慈悲^{じひ}：あわれみ、いつくしむ心^{こころ}。

⇒ พรหมวิหาร 4

ไม้สัก mái-sàk [名] チーク。熱帯産落葉高木^{ねったいさんらくようこうぼく}。

— ย —

ยกข้อฟ้า, พิธี yók-chôw-fáa, phíthii [名] チョーファー^あ上げ^{じいん}：寺院

の落成^{らくせい}の際^{さい}に、寺院^{じいん}の屋根^{やね}の両端^{りょうたん}に、木彫^{きぼ}りで金箔^{きんぱく}を貼^はった竜

頭^ず状^{じょう}の飾^{かざ}りを上^あげる儀式^{ぎしき}。

ยศ yót [名] 名称^{めいしょう}。名声^{めいせい}。ほまれ。

ย่าม yâam [名] 頭陀袋^{ず だ ぶくろ}：僧侶^{そうりよ}の用^{もち}いるこまごましたいろいろの
ものを入^いれる布製^{ぬのせい}の袋^{ぶくろ}。

โยนิโสมนสิการ yoonísōo-mánásikaan [名] 如理作意^{により さい}。正思惟^{しょうしゆい}：理
にかなった判断^{はんだん}。明確^{めいかく}な認識^{にんしき}。

โยม yoom [名] 僧^{そう}が自分^{じぶん}の両親^{りょうしん}または両親^{りょうしん}と同年配^{どうねんばい}の在家^{ざいけ}の人^{ひと}

よ
を呼ぶ語。

— ร —

รส rót [名] 味^{あじ}。食味^{しょくみ}。

ระเบียง rábianj [名] 回廊^{かいろう}。ベランダ。

รัตนตรัย ráttaná-traí [名] 三宝^{さんぼう}：仏^{ぶつ}・法^{ぼう}・僧^{そう}。⇒ พระศรีรัตนตรัย

รูปปั้นสิงห์ rūup-pân-sǐng [名] 獅子^{しし}の塑像^{そぞう}。

— ล —

ลอยกระทง loi-krathong [名] 灯籠流し^{どうろうなが}。ローイクラトン^{いんれきじゅう}：陰曆十
二月^{に がつ}に行^{おこな}われる年^{ねん}中^{じゅう}行事^{ぎょうじ}。

ลักษณะ láksàná? [名] 相^{そう}。特性^{とくせい}。特相^{とくそう}。形態^{けいたい}。容貌^{ようぼう}。特徴^{とくちょう}。品質^{ひんしつ}。

ลานวัด laan-wát [名] 境内^{けいだい}。

ลายไทย laai-thai [名] タイ式^{しき}デザイン。

ลาสิกขา laa-sikkhāa [動] 還俗^{げんぞく}する(Ⅲ)：一度^{いち}出家^{どしゅつ}したものが、再^{ふた}
び俗人^{ぞくじん}にかえること。

ลูกประคำ lûuk-prakham [名] 数珠^{じゅうず}。念珠^{ねんじゅ}。

โลก lôok [名] 世間^{せけん}。世界^{せかい}。

โลก 3 lôok-săam [名] 三界^{さんがい}：三界^{さんがい}：欲界^{よくかい}・色界^{しきかい}・無色界^{むしきかい}の三つの

世界の総称。欲界は欲望にとらわれた生きものが住む世界。色界は欲望は超越したが、物質的條件にとらわれた生きものが住む世界。無色界は欲望も物質的條件も超越し、精神的條件のみを有する生きものが住む世界。生きものはこれらの境域を輪廻する。すべての生きものが生死輪廻する三種の世界。生きものが活動する全世界を指す。

โลกียะ lookiyá? [修] 世間の。世間的な。凡俗の。俗世の。世の常の。肉欲の。

โลกุตตรธรรม lookùttàrá?·tham [名] 出世間法：覺りの世界の物事。俗世から解脱するのに助けとなる仏教の教え。

โลกุตระ lookùttàrá? [修] 出世間の。世間を越えた。聖なる。聖者の。

— ๖ —

วจีทุจริต wácii-thútcarit [名] 語惡行：言葉による悪い行い。すなわち、①うそをつくこと（妄語）②仲違いをはかることを言うこと（兩舌）③惡口を言うこと（惡口）④無益なおしゃべりをする（綺語）の四つのこと。⇒ ทุจริต 3

วจีสุจริต wácii-sùtcarit [名] 口善行：言葉によるよい行い。すなわち、①うそをつかないこと（不妄語）②仲違いをはかることを言

わないこと（不兩舌）③惡口を言わないこと（不惡口）④無益なおしゃべりをしないこと（不綺語）の四つのこと。⇒ สุจริต 3

วัด wát [名] 寺。寺院。

วัดหลวง wát-luāng [名] 王立寺院。

วัดอุ้มงคล wátthù-mongkhon [名] お守り。魔よけ。護符。

วันโกน wan-koon [名] 僧侶が髪を剃る日：仏日（ワン・ブラ）の前日。で月に四回ある。

วันเข้าพรรษา wan-khāo-phansāa [名] 入安居。結夏。雨季の始まり：夏安居の始まる日。⇒ พรรษา

วันปวารณา wan-pàwaaránaa [名] 自恣日。出安居。解夏：夏安居の終わる日。⇒ พรรษา

วันพระ wan-phrá? [名] 布薩日。齋日。仏日：仏教教団で、満月と新月の日に一カ所に集まって戒律の条文を読みあげ、互いに自己の罪過を懺悔する日。在家信者は八齋戒を守り、説法を聞き、僧尼に飲食の供養をする。⇒ วันอุโบสถ / 布薩

วันออกพรรษา wan-ʔòok-phansāa [名] 出安居。解夏。自恣日：夏安居の終了日。⇒ พรรษา

วันอุโบสถ wan-ʔùboosòt [名] 布薩日。仏日：満月と新月の日、僧侶は布薩堂に集まりパーティモッカ二百二十七戒をよみあげて自己の罪過を懺悔する。在家信者はこの日は八齋戒を守る。⇒ วันอุโบสถ / 布薩

วันอุโบสถ (โรกุโสนิจิ หรือ ฟุซัทซุ)

มหายานมีวันอุโบสถ 6 วัน คือวันขึ้น 8 ค่ำ 1 ขึ้น 14 และ 15 ค่ำ วันแรม 8 ค่ำ แรม 14 และ 15 ค่ำเรียกว่า โรกุโสนิจิ แปลว่า 6 วันที่บุคคลควรสำรวจกายวาจาใจเช่นเดียวกับพุทธมามกะฝ่ายเถรวาท พุทธมามกะ ฝ่ายมหายาน ก็ไปประชุมกันที่วัด ถือศีล 8 ฟังเทศนาธรรมและถวายอาหารพระ

ในประเทศจีน ประชาชนเชื่อว่า เทพเจ้าผู้ดูแลชีวิตของเราจะกำหนดอายุขัยของเราตามการกระทำของเรา เนื่องจากอิทธิพลของลัทธิเต๋า ในบรรดา 6 วันนั้น วันโคมินสำคัญที่สุด เพราะว่าหลังจากเรานอนหลับ ตื่นนอนเชื่อว่า ชันฉี จะออกจากร่างกายของเราแล้ว จะรายงานการกระทำของเราต่อเจ้าแห่งสวรรค์ ผลก็คือว่า ความเชื่อที่ว่า ประชาชนจะไม่นอน และถือ ศีล 8 ตลอดคืนจึงเกิดขึ้น

ความเชื่อเรื่องนี้ ซึ่งเรียกว่า โคมินมะชิได้เข้ามาจาก ประเทศจีน สู่ประเทศญี่ปุ่น ในสมัย เฮอัน และ ไดนิยมแพร่หลาย ในสมัย เอะโดะ คิดกันว่าวันนี้เป็นโอกาสสำคัญ และ เหมาะสมที่จะเล่นิทานและเรื่องราว ในอดีตสู่กันฟัง

布薩 (ろくさいにち)

大乘仏教では、布薩は毎月の八日・十四日・十五日・二十三日・二十九日・三十日の六日で、身体と言葉と心を慎む六日という意味で、六斎日と呼びます。この日には、大乘仏教でも、在家信者は寺院に集まって八斎戒を守り、説法を聴き、僧を供養します。

中国では、人のおこないを見張っている命を司る神が、その人の善悪によって、この六斎日に寿命を増やしたり減らしたりすると考えられていました。道教の影響で、この六斎日のうち、特に庚申に当る日が重要とされました。この日は、人が寝た後、三戸と呼ばれる虫が体内から抜け出し、天帝にその人の罪や過ちを報告するとされました。そのため、人々は庚申の夜は寝ないで八斎戒を守るといふ信仰が生まれました。

庚申待といわれるこの信仰は、平安時代に中国から日本に伝えられ、江戸時代に盛んになりました。この日が、説話や物語を言い伝える大切な場であったと考えられています。